

編集：ロータリーの友 地区委員 田崎 博俊・宮崎西

分区内「統一河川クリーン作戦」を実施して

鹿児島県東部分区ガバナー補佐 古江 矢

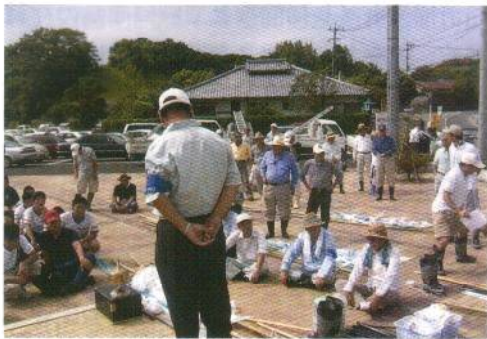
今年度、当分区内の8クラブ統一事業として、9月3日「河川クリーン作戦」を実施しました。

5月末から準備にかかり、ほとんどのクラブに賛同してもらい、それぞれのクラブが自らの企画を立て、地域内の各河川において実施しました。行政側の協力も得て、インターアクト、ローターアクト、プロバスクラブの会員、ロータリアンの家族と従業員、地域住民が参加。参加者が多いクラブでは、300人を動員、総勢800人が参加して成功裏に実施することができました。

この企画には、3つの目的がありました。その1つは、今年度の国際ロータリーの強調事項でもある水保全に沿った活動であること。2つ目は、クラブの活性化。3つ目は、統一事業をすることでPR・広報の実を挙げること、です。

分区内で参加した各クラブには、その3つの目的を十分理解し、クラブの力とアイデアを結集し実践していただいたことに、これがロータリーの姿であると自信をもつことができ

ました。この活動力を、今後のクラブ活性化に生かしていきたいと思



河川クリーン作戦の準備をするロータリアン

台湾土城扶輪社への 青少年交換学生

宮崎北RC 国際奉仕委員長 長嶺 貴臣

1988年に姉妹クラブを締結した第3480地区台湾土城扶輪社(ロータリークラブ)と、2年前から話が出てい



訪問した中華高級高校の前にて

た青少年交換を実施しました。当クラブ提唱の宮崎日大高等学校インターアクトクラブの生徒3人と顧問教

論を、11月19～23日の間、台湾へ青少年親善使節として送り出しました。

台湾の空港へ着くと、盛大な歓迎を受け生徒たちも驚いたそうです。空港で台湾のロータリアンから「若い世代の人たちに台湾のすべてを見てほしい」とのあいさつがあり、故宮博物院、総督府などを訪問したり、ハイキングを楽しんだりしました。ホームステイ先では親睦を深め、台湾の文化と複雑な歴史、また大学進学率が98%という超高学歴社会を見て、少しなりとも国際理解が何たるか、また台湾について理解できたとのことでした。

1月21日には、台湾からの青少年交換学生5人が来日。みな会員の子弟であり、私たちから見ると孫の年齢くらいで、それだけ台湾土城クラブの会員の年齢層は、若いであろうと思います。台湾は教育に熱心であることは有名ですが、受け入れた5人ともに留学経験があり、流暢な英語を話す賢い子どもたちでした。こうして、今回の生徒の驚きと喜びの報告を聞きますと、今後とも宮崎北クラブの恒例行事として検討し、継続していきたいと思

古紙回収事業

宮崎西RC 社会奉仕委員長 後藤 一臣

当クラブでは1976年7月から今日まで、毎月第1例会日に古紙回収事業を行っている。例会場のあるホテルの駐車場を借りて、社会奉仕委員会が中心となって、会員の持参した古紙を業者の方と協力して回収している。奉仕する者は活動しなくてはならない、ということ



1
回
に
回
収
さ
れ
る
古
紙
は
2
・
5
t
立
ち
木
5
0
本
分
の
パ
ル
プ
に
相
当

から、金銭や物品を贈ることをもって満足することなく、心を込めた労力の社会奉仕としての計画だ。ロータリーは単に心の持ちようだけでなく、またロータリーの哲学も単に主観的なものではなく、実際的な行動に移さなくてはならないと考えたからである。当クラブで回収される古紙は、1回で約2.5tになるが、これは直径14cm、高さ8mの立ち木50本分のパルプに相当する。つまり、私たちの活動は、少なくとも年間に600本の立ち木を守ったことになる。

また古紙から製紙する場合、バージン原料から生産するよりもエネルギーが節減され、生産工場からの汚染物質も減少する。生産エネルギーで70～75%減、大気汚染物質を74%、水質汚染物質を約35%低減できるのである。

宮崎市では「ごみ減量とリサイクル運動」および環境教育の一環として、「まぜればごみ、わければ資源」を合言葉として、家庭から排出される有価物（紙類、ビン、缶類など）を市民団体が回収し、その回収量に応じて市が報奨金を交付する有価物回収推進事業を実施している。そこでわがクラブもこの事業に協力、市から交付され

た報奨金を社会奉仕基金に入れ、そこから「宮崎市民活動支援基金への寄付」などに運用している。

古紙回収事業そのものは、もちろん有意義な事業ではあるが、社会全体において、無駄な古紙が発生することを防ぐ事業も大切であることをクラブ会員全員が意識して活動が続けている。

パートナー会

西都RC パートナー会会長 長谷川悦子

創立21年の歴史の中で、会員夫人で構成するパートナー会を立ち上げました。9月に観月会、11月にパートナー会、12月に行われたクリスマス会は会員家族3世代にわたっての参加があり、活気ある楽しいパーティーとなりました。わがクラブにおいては、少子化問題も無縁です。

春にはパークゴルフも予定しています。夫がロータリーに入会してから17年の間、私は傍観者でしたが、パートナー会も台風14号義損金街頭活動など、微力ながらも協力しました。私たちパートナー会も配偶者として友愛を深め、共に学び、クラブの活性化を目標に足跡を残したいと思います。



ロータリアン藤田千都代さんの演奏で会場は
いっそう華やかに

ガバナーわが地区自慢

「功名が辻」と 「ロータリー夜間大学」



菊地 平（宮崎西RC）

時は約450年前の戦国時代。夫・山内一豊を支え、土佐24万石の主へと導いた妻・千代。その内助の功が目覚ましいのが「クラブ夫人の集い」です。クラブの2割に存在し、そのほとんどがクラブ創立と同時に誕生。活動は多岐にわたり、家族会・親睦会行事・研修旅行、海外姉妹クラブ交流など、どのクラブの集いも退会防止に大いに貢献。鹿児島南ロータリークラブ(RC)の夫人の会は、ハンドベルによる演奏活動で、施設慰問などテレビでも紹介されるほどの達者ぶりで

す。地区大会、国際大会へとロータリーに積極的に参加する、一石三鳥の見事な賢妻もいます。

鹿児島西RCでは、「炉辺談話」を「ロータリー夜間大学」として名を変え、毎月1回第一月曜日の夜を定例化。1978年から始め、4月で第329回を迎えます。点鐘に代わって乾杯でスタート、談論風発のうちに親睦が図られ、新人会員も早くなじめるクラブづくりがされています。このことを公式訪問で話したところ、他クラブでも「ロータリー夜間大学」に名称を変更され、課外授業、専門課程など多岐に運用、高鍋RCはロータリー以外のことをしゃべらないことにしたら、参加者倍増となったとか。夫人の会もそれぞれの名前で発展していますが、情報集会も楽しいネーミングによって活性化したいと思います。